

「体験型返礼品の利用・関心」6割

トラストバンク地域創生ラボ「旅行とふるさと納税に関する調査」

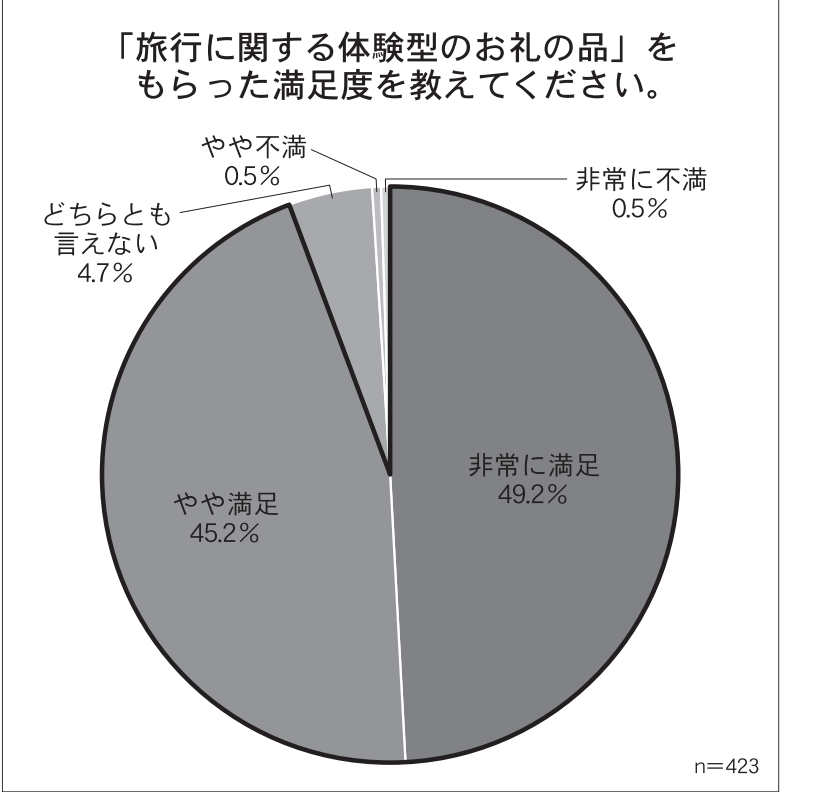
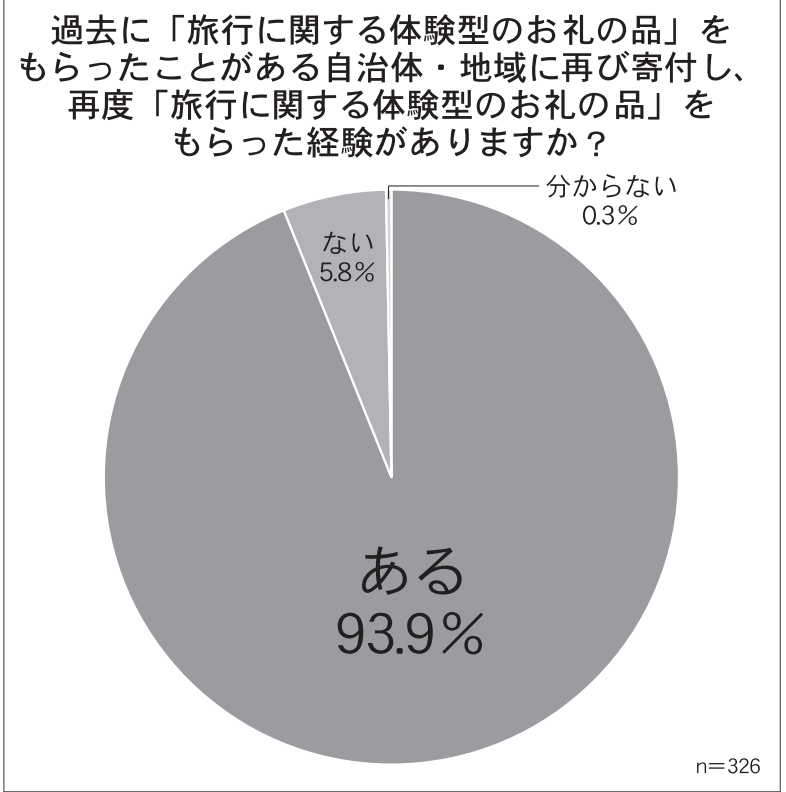
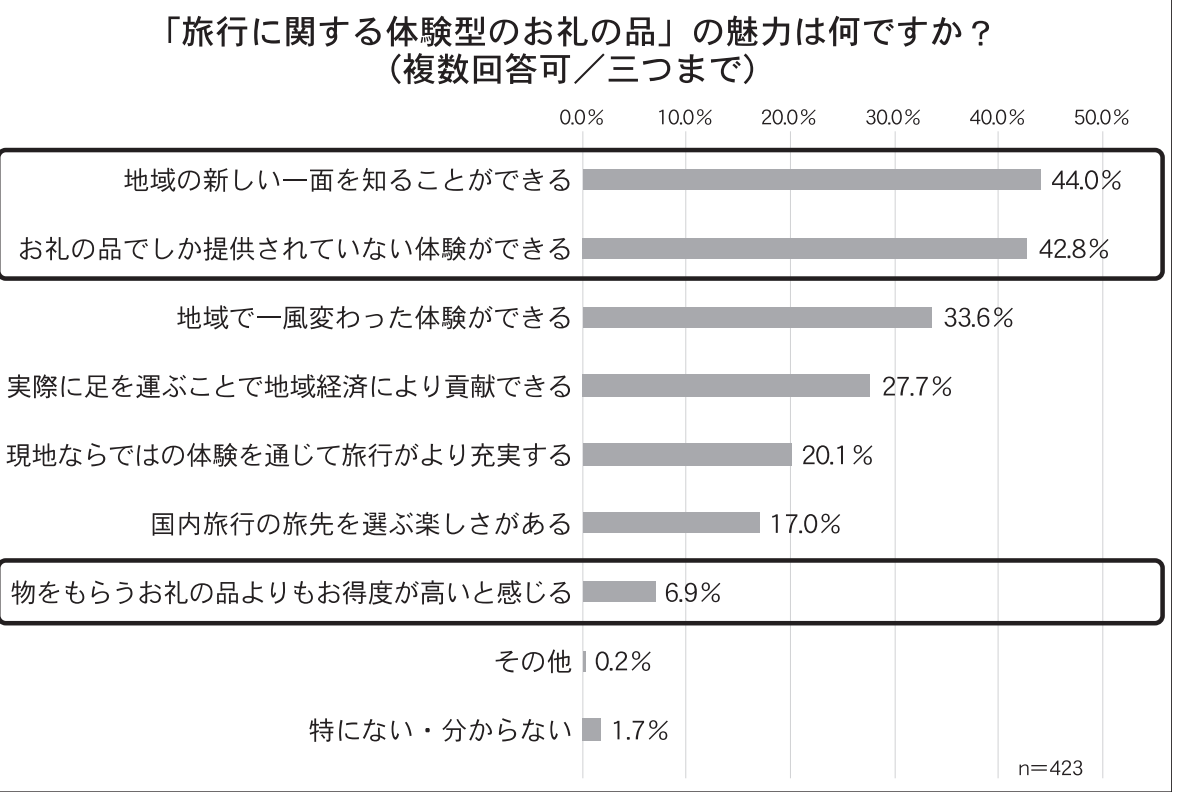
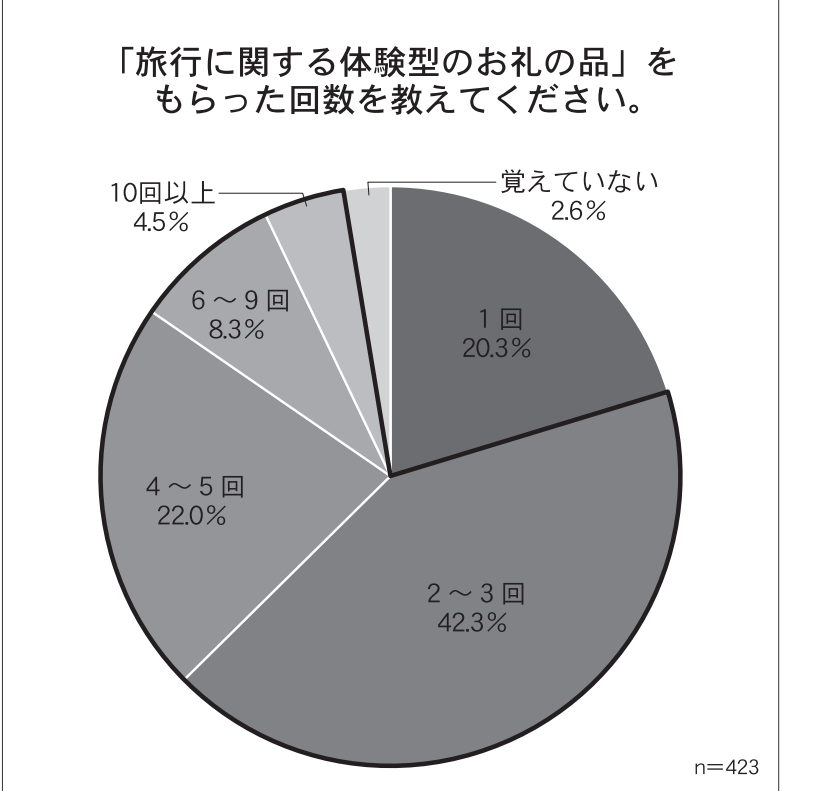
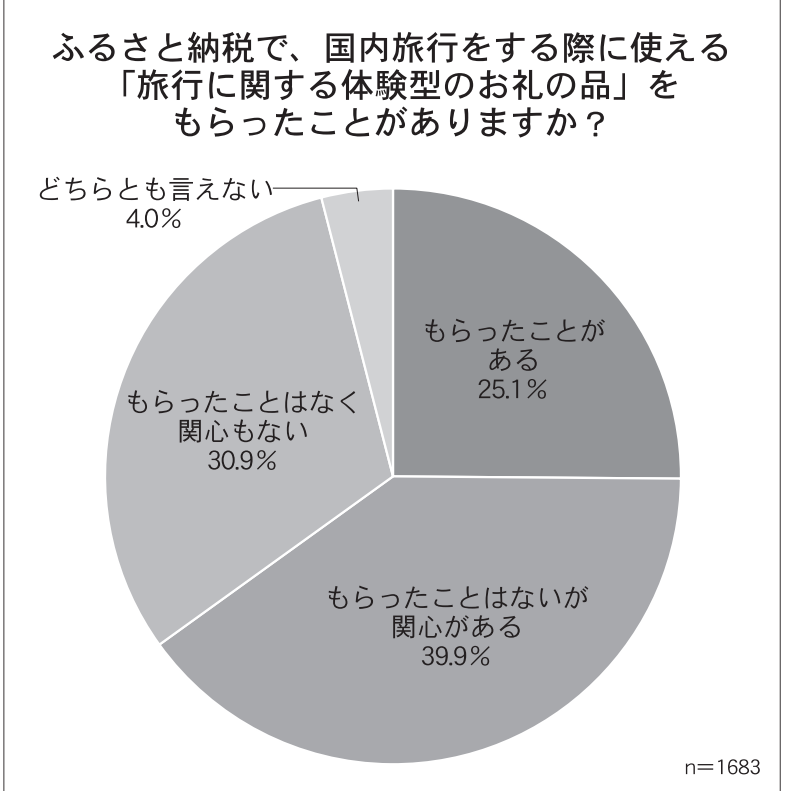
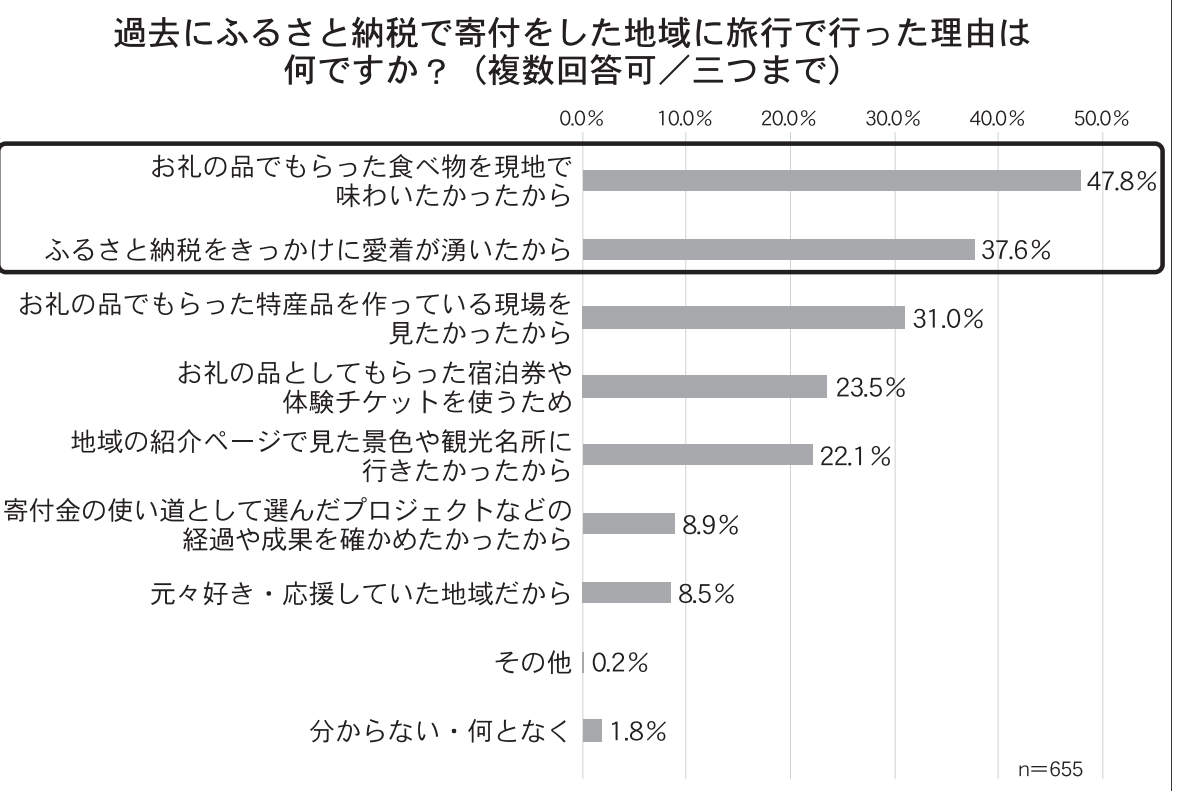
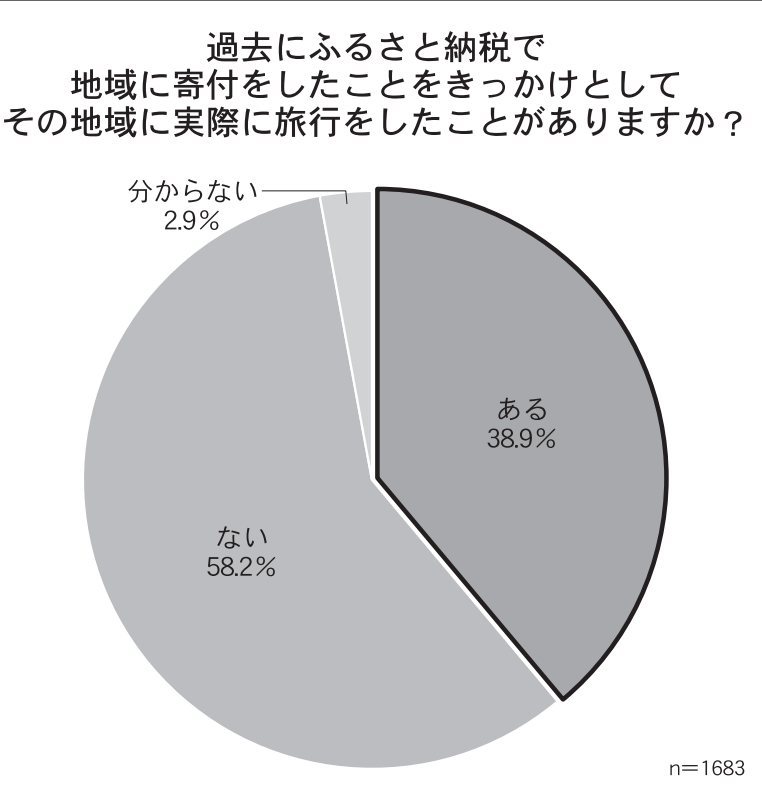
体験型返礼品の伸び率1.8倍に

ふるさと納税のお礼として受け取れる「返礼品」。コロナ後のお出かけ需要の高まりを経て、ただ品物を受け取るだけでなく、寄付先へ実際に足を運ぶきっかけを提供する「体験型返礼品」の需要が拡大している。ふるさと納税総合サイト「ふるさとチョイス」を企画するトラストバンク(東京都品川区)川村憲一代表取締役社長は「昨年12月に発表した調査では、同サイト内における2023年11月の体験型返礼品への寄付件数は、19年同期比で1.8倍の伸び率となった。地域経済効果、関係交流人口の増加などにつなげようと各自治体が開発に力を入れている」と述べた。

トラストバンクの調査によると、ふるさと納税は、食・農産物をはじめ、体験型返礼品をもちいたことがある人が、体験型返礼品をもちいたことがある人の合計は65.0%。体験型返礼品の満足度は94.4%と、高い評価となった。調査は今年4月にインターネットを用いて実施。ふるさと納税を利用したことがある20歳以上の全国1683人の回答を得た。

同地域へのリピート寄付率は9割超 お得さよりも関係性構築を重視

過去のふるさと納税をきっかけとした旅行について、38.9%が「ある」と回答。その理由として、「お礼の品でもいただいた食・農産物を現地で味わいたかったから」が47.8%と最も多かった。一方で、「ふるさと納税をきっかけに愛着が湧いたから」が37.6%、「お礼の品でもいただいた特産品を作っている現場を見たかったから」が31.0%と、ふるさと納税をきっかけに愛着が湧いたから、お礼の品でもいただいた特産品を作っている現場を見たかったから、お礼の品でもいただいた宿泊券や体験チケットを使うため、地域の紹介ページで見た景色や観光名所に行きたかったから、寄付金の使い道として選んだプロジェクトなどの経過や成果を確認したかったから、元々好き・応援していた地域だから、その他、分らない・何となく、といった理由が挙げられた。



各自治体で創意工夫がみられる、ユニークな体験型返礼品

東京都豊島区

「手ぶら」コスプレ体験 寄付額 2万3千円
「ザ・パルチー」の聖地としての存在感を増す東京都豊島区。同区は2023年11月1日に体験型を含む「ふるさと納税」を再開し、お礼の品として「手ぶら」コスプレ体験を提供している。この体験は、区内にある「ザ・パルチー」の聖地を訪れ、コスプレ衣装を着用し、撮影会に参加する。また、区内にある「ザ・パルチー」の聖地を訪れ、コスプレ衣装を着用し、撮影会に参加する。また、区内にある「ザ・パルチー」の聖地を訪れ、コスプレ衣装を着用し、撮影会に参加する。

新潟県上越市

農作業体験・棚田オーナー 寄付額 1万円
米どころ、新潟県上越市。田んぼが幾重にも折り重なった棚田は、米作りの魅力や面白さを知りたいという思いが使用できる。農家が手回しで田植え体験ができる。また、棚田オーナーとして、田植え体験に参加できる。また、棚田オーナーとして、田植え体験に参加できる。

自治体×日本航空(JAL)

空港施設の見学ツアー 寄付額 10万円
大阪国際空港が所在する大阪府豊中市、池田市、兵庫県伊丹市の3市、日本航空(JAL)大阪空港支店、各市の体験型返礼品として、JAL大阪国際空港施設の見学ツアーを提供している。昨年度は、同ツアーの見学ツアーは、飛行機の整備を行う格納庫で、整備士が作業している姿や飛行機を間近で見学できる。また、運航業務員による整備士への説明や、客室乗務員が訓練を受けている様子を見学できる。また、客室乗務員が訓練を受けている様子を見学できる。また、客室乗務員が訓練を受けている様子を見学できる。